

令和8年5月 月例記者会見(令和8年5月 14 日)市長原稿

皆さま方には、平素より市政運営にご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

それでは、5月の月例記者会見の資料について説明いたします。

【市長】

はじめに、資料No.1「市長戦略2.0策定、始動！」についてです。

市長戦略は、市役所組織の経営戦略であります。市長就任1期目の「前市長戦略」では、財政非常事態宣言の解除と未来への投資ができる土台づくりに重きを置き市政運営を行いました。

「改革の4年から、共に創る4年へ」、

市長2期目のフェーズである市長戦略2.0では、第5次裾野市総合計画後期基本計画と連動し、「市民ひとりひとりが豊かさや幸せを実感できるまちの実現に向けて施策の推進と市役所の変革を一体的に進めるものであります。

一例を出しますと前戦略からの継続的な課題でもありますが、「裾野赤十字病院の充実」や「美化センターの更新」など市民生活に直結する課題を重点項目に位置付けました。「戦略」の成果を皆さんに「実感」していただけるような施策、事業を展開します。

今回、前市長戦略からの最大の進化させたポイントは、綱領に「共創による変革の加速」を加えたことであります。

市民、地域企業、立地企業の皆さんと「共に創る」ことに重点、視点を置きました。皆さんの意見を聞き、ニーズに合わせてまちをより良いものに導いていく、そのプロセス(過程)を大切にし、市民の皆さんのまちに対する満足度を向上させ、「人と企業に選ばれるまち」のたしかな実現について邁進してまいります。

こちらの「市長戦略2.0」は、令和7年度早々に、私は庁内全体を周り全職員に直接伝え、共有いたしました。

この戦略を基に、様々な施策、事業に取り組んでまいりますので、本月例記者会見にご参加の報道関係の皆様方にも注視いただき、さらに取材いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

市長戦略2.0についての説明は以上となります。

【市長】

資料No.2「令和7年度ふるさと納税寄附実績」についてです。

資料No.1でもお話ししました私の市長1期目の「前市長戦略」では、重点項目のひとつとして、「財政の健全化」を掲げ、とくに「ふるさと納税寄附額の増収」につきましては、令和6年度に、「ふるさと納税強化対策室」を設置し、さらに昨年度は企業誘致部門を所管する渉外課と統合させ注力いたしました。おかげさまで、私が市長に就任しましてからは概ねふるさと納税寄附受入額は右肩上がり、令和7年度は寄附受入額の過去最高額を更新いたしました。

その内容、詳細について、産業・イノベーション推進課、川口主任より説明いたします。

【産業・イノベーション推進課 川口主任】

産業・イノベーション推進課の川口です、「令和7年度ふるさと納税寄附実績」について説明させていただきます。

令和7年度は、当市のふるさと納税寄附額として過去最高の 572,475,024 円の寄附を受け付けました。大変うれしい成果でございます。

好調な要因として、大きく3つ考えております。1つ目は、新たに開拓した高額返礼品への寄附状況が好調であったことです。2つ目は、市内立地企業等の協力により加わった返礼品への寄附状況が好調であったことです。3つ目は、市内事業所・企業と連携し、新規返礼品の登録数を増やしたことにより、寄附件数増につながったことです。

令和6・7年度の取り組みを通じ、富士山麓から届く澄み渡る水・炭酸水が主力返礼品に成長したことを踏まえ、令和8年度は、「富士山麓の水」をテーマに、「新規返礼品の開拓」「既存返礼品のブラッシュアップ」を進め、返礼品のさらなる魅力向上を図ってまいります。

私からの説明は以上となります。

【市長】

資料No.3「地域イノベーション推進に向けて、『シヅクリプロジェクト』に参画します」についてです。

当市では、次世代を担う若者が、多様な人や地域・社会との関わりを通じて、自ら考え、挑戦する力を育むことを大切にしており、若者世代の多様な学びを後押ししていきたいと考えています。また、こうした学びは、子どもたちだけでなく、地域で働く大人や市職員にとっても、新たな気づきや価値観に触れる機会になると考えております。

このたび、裾野市として、一般社団法人シヅクリが実施する「シヅクリプロジェクト」に参画することといたしました。

詳細は大西副市長から説明いたします。

【大西副市長】

それでは、「シヅクリプロジェクト」への参画について、説明します。

裾野市では、地域イノベーションを支える人材育成や、共創による地域課題解決の土壌づくりを目的として、一般社団法人シヅクリが実施する「シヅクリプロジェクト」に参画します。

このプロジェクトは、地域と次世代がともに未来を創る産官学連携の取組であり、中高生と企業人、自治体職員などが、立場を越えて地域課題を考え、新たな価値やアイデアを生み出していく実践型プログラムです。

なお、地方公共団体としての参画は、裾野市が初となります。

今回の参画では、市内の中学校・高等学校における探究学習に、市職員も参加いたします。生徒との対話や企画検討に関わることで、若い世代が地域や社会との接点を持ちながら、主体的に考え、挑戦する力を育むことにつなげていきたいと考えております。

探求学習への市の参加はこれまでも実績がありますが、このプロジェクトでは、企業や学校関係者との越境的な対話・協働を通じて、市職員自身が、新しい視点や実践的な学びを得る機会になると考えております。特に、企業等が取り組むオープンイノベーションや共創の考え方に触れることで、今後、当市が進める地域イノベーション施策や事業者支援にも活かしていきたいと考えてお

ります。

今後は、企業等参画者向け研修に市職員も参加することを皮切りに、夏頃から冬頃にかけて市内学校での探究学習へ参加し、来年1月には成果発表会「静岡カップ」が予定されております。

当市としては、本取組を通じて、世代や立場を越えた共創の機会を広げながら、地域の未来を担う人材育成と、地域イノベーションの推進につなげてまいります。

【市長】

資料No.4「武蔵野大学との共創パートナー連携協定」についてです。

本年4月1日に、裾野市と武蔵野大学との間で、「共創パートナー連携協定」を締結しました。武蔵野大学には、日本で初めて「アントレプレナーシップ」を冠して設置されたアントレプレナーシップ学部があり、失敗を恐れずに踏み出し、新たな価値を見出し、創造していく人材を育成しています。詳細については、こちらも大西副市長より説明します。

【大西副市長】

「武蔵野大学との共創パートナー連携協定」について、ご説明させていただきます。本協定は、裾野市の地域課題への取組を推進するため、武蔵野大学との連携により、学生や教員といった外部の人材が地域と関わる機会をつくり、市民と関わりながら課題解決を検討し、実践する機会を創出することを目的としています。

主な取組内容として、3点考えています。1点目は、武蔵野大学の現役学生、卒業生の企業家に向けて、実社会での実証プロジェクト機会を提供することです。2点目は、武蔵野大学と連携し、市内小中高校生向けのアントレプレナーシップ教育を実施することです。3点目は、武蔵野大学と連携し、社会人を対象とした実践的なアントレプレナーシップ教育を実施することです。具体的な取組内容に関しては、武蔵野大学と協議を重ね、決定していく予定です。

今後の具体的な取組が決定しましたら、改めてお知らせをしますので、その際はぜひ取材をしていただきますようお願いいたします。

【市長】

資料No.5「市指定ごみ袋臨時措置」についてです。

現在、一時的な需要の高まりにより、市内店舗において、市指定ごみ袋が品薄となっています。そういった状況を受けて、市では、臨時措置として、5月11日(月)から6月30日(火)までの間、市指定袋以外の中身が見える透明または半透明の袋でごみを出すことができるようにいたしました。

このことについて、生活環境課の藤田主席主査より説明します。

【藤田主席主査】

生活環境課の藤田です。

ただ今、市長より説明がありましたとおり、一時的な需要の高まりにより、市内店舗において、市指定ごみ袋が品薄となっています。

その状況を受けまして、指定ごみ袋が入手困難な場合、中身が見える透明・半透明の袋でごみを出すことを可能とする臨時措置を設定しました。

- ・ 期間は令和8年5月 11 日(月)から令和8年6月 30 日(火)まで
- ・ 対象は燃えるごみ、プラスチック製容器包装、燃えないごみ(埋立)
- ・ 使用できる袋は、中身の見える透明または半透明の袋(20～45リットル)です。

なお、従来の指定ごみ袋同様に、「区名」、「氏名」の記入をお願いするものです。

また、中身の見えない黒色などの色付きのごみ袋、口を縛れない袋、他自治体の指定ごみ袋は今回の臨時措置の対象外となり使用できませんのでご注意ください。

最後になりますが、市指定ごみ袋の製造については、製造元に確認しましたところ、例年と同程度の数量の供給を見込んでいるという情報を得ております。

市民の皆さまには、本当に必要な方が購入できるよう過度な買いだめをしないよう、冷静な行動を併せてお知らせ、呼びかけさせていただきたいと思います。私からの説明は以上です。

【市長】

資料№6「布団・衣類の特別回収イベント」についてです。

こちらの回収イベントは一昨年から始まり 4 回目の開催となります。毎回とても好評で多くの布団や衣類が回収され、リサイクルの好循環を生む取り組みとなっております。

詳細は生活環境課の瀬戸主事より説明いたします。

【瀬戸主事】

生活環境課の瀬戸です。

5 月 24 日(日曜日)に市役所正面駐車場で開催される「布団・衣類の特別回収イベント」について説明します。

前回は約 17 トンの布団・衣類をお持ちいただきました。ドライブスルー形式で布団や衣類を降ろしていただくので、持ち込みやすいと好評をいただいております。

回収した布団や衣類で使えるものは再利用し、再利用できないものはウエスや反毛材料として活用して、燃えるごみを削減します。

裾野市では、衣類については拠点の回収ボックスで分別回収を行っていますが、布団については行っていないため、市民の皆さんが不要になった布団をごみとして出す際には、通常は燃えるごみや粗大ごみとして出していただくことになります。市としては、リサイクルやリユースを推進するとともに、できる限り焼却処理するごみ量を減らして、温室効果ガス排出量の抑制にも貢献したいと考えておりますので、今後も衣替えの時期などのタイミングで、この回収イベントを実施していければと思います。

私からの説明は以上となります。

【市長】

資料 No.7「令和7年度スポーツ合宿等実績及び吉田響選手準高地トレーニング」についてです。

裾野市では、富士山麓の豊かな自然環境・標高の高さ・首都圏からのアクセスの良さなどの地域資源を生かしたスポーツツーリズム事業を推進しています。

本日は、令和7年度のスポーツ合宿等の実績報告に合わせて、先日、プロランナーの方が準高地を使って公開練習を行ったので、ご報告いたします。

詳細は、商業観光政策課、杉山主任より説明します。

【商業観光政策課 杉山】

商業観光政策課の杉山です。

令和7年度のスポーツ合宿は、46チーム・2824人の受入実績ということで、前年と比べると6チーム、273人の増加となっています。

現在地域おこし協力隊として、元日本代表長距離選手の萩原さんにもスポーツツーリズム事業にご協力いただいております。萩原さんの経歴や人脈からこれまで届かなかった領域まで誘致活動を行うことができましたので、こちらの結果が表れたと考えています。

経済波及効果としても、昨年度より1.1倍51,900千円となっています。こちらの数字もさらに伸ばせるように尽力いたします。

スポーツ合宿の実績は以上になります。

続いて、令和8年5月7日に、富士山こどもの国付近で御殿場市出身の吉田響選手が公開練習を行いました。

初マラソンでも話題となった吉田響選手は、令和8年3月3日に裾野市スポーツツーリズム推進協議会アンバサダーに就任され、市内のスポーツ施設やイベント等のPRに尽力いただいております。

今後もこのような日本国内、そして世界で活躍する選手をはじめ、数多くのチーム・団体の方々に合宿として来ていただけるように誘致活動等を行い、公開練習や取材対応について積極的な報道提供を行ってまいりますので、市スポーツツーリズム事業のご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。説明は以上です。

【市長】

資料 No.8「第5回富士山すその みんなのランニングフェスタ」についてです。

昨年に続いての開催となりますが、誰でも気軽に参加できるランニングイベント「第5回富士山すその みんなのランニングフェスタ」を、5月30日(土)に開催します。

コースは、裾野市運動公園陸上競技場とパノラマロードです。

子どもから大人まで楽しめるように5つの種目を用意しています。種目は、

- ・5歳以上又は小学生の子どもとその保護者が対象の“1.6km ファミリーラン”
- ・小学1～6年生が対象の“1.6km キッズラン”
- ・中学生以上が対象の“10km 個人ラン”

- ・どなたでも参加可能な“4km 個人ファンラン”
- ・小学1年生以上が対象でチームを組んでみんなで楽しむ“2時間リレーラン”となります。

MCは、ONE TOKYO(ワントーキョー)オフィシャルサポーターの福島和可菜さんと、シンガーソングライターで裾野市観光・スポーツ大使のフルヤトモヒロさんが務めます。

また、応援団長には、裾野市地域おこし協力隊の萩原 歩美さんが就任し、会場を盛り上げます。

当日会場では、カレーフェスタも開催しており、カレーだけをお楽しみいただくことも可能です。お気軽にお越しください。

申し込みは5月24日(日)までとなっております。

よろしくお願いいたします。

【市長】

資料No.9「令和9年裾野市政カレンダー掲載写真募集」についてです。

裾野市では、毎年富士山の写真を掲載した市政カレンダーを作成しております。今年も掲載写真を募集しますので、周知をお願いするものです。詳細は、秘書広報課の中村主事からお願いします。

【秘書広報課 中村主事】

秘書広報課の中村です。

裾野市では、市内から見える富士山の美しい写真を掲載したカレンダーを毎年作成しています。

富士山がある裾野市の風景を掲載することで、市内外の方に富士山の魅力を伝え、裾野市に愛着を持ってもらうことを目的としています。

また、市民にとっては市内の主要行事、公共施設の休館日などを掲載し市民の生活に役立つものにもなっています。

今年度も市政カレンダーを作成するため、掲載する写真を募集します。

令和9年のテーマは「裾野から感じる、富士の迫力。」です。裾野という特等席から見上げる、富士山の写真を見て、誇らしい気持ちになるようなカレンダーを作り、裾野市のことを好きになってもらいたいと考えています。

裾野市から見ることのできる富士山は、左右の稜線が美しく「日本一美しい富士山が見えるまち」でもあると自負しています。

季節で表情の変わる富士山の写真を広く募集します。ぜひ、多くの写真の応募をお待ちしております。周知の程、よろしくお願いいたします。

私からの説明は以上です。